

第45回永田町子ども未来会議 資料
令和5年5月24日（水）16:00～

医療的ケア児の個別避難計画策定 および避難訓練の実施について

～佐賀県武雄市の取り組み～



武雄市の医療的ケア児支援について

平成31年4月 医療的ケア児の専門相談部署の設置

切れ目ない支援、教育と福祉の連携を目指して

【医療的ケア児に関する生活課題の相談支援】

- ・ 退院前の在宅移行支援会議（保健師と出席）
- ・ 福祉サービス利用に係る相談
- ・ 災害時の避難支援（個別避難計画の策定、避難訓練）
- ・ 就園、進学に係る相談
- ・ 学校での支援会議
- ・ その他

個別避難計画策定の経緯

令和元年 8 月 佐賀豪雨災害（市内の医療的ケア児 1名被災）

// 10月 3市4町の医療的ケア児ワーキンググループにて
保護者代表の切実な訴え。「**停電は命のカウントダウン**」

// 11月 各家庭に災害に対する不安、要望等聞き取り。

// 12月 ご本人宅で個別支援会議。（年齢や重症度の高い3名）

令和 2年 2月 3名の個別避難計画策定。

令和元年8月佐賀豪雨 武雄市の被害状況



計画策定～個別支援会議～

目的： **ご本人宅で行う** ことで、本人の状態や居室の様子、使用する医療機器などを関係者全員で確認・共有。

【会議の出席者】

- ・本人、保護者
- ・消防署 救急救命士
- ・居宅介護ヘルパー
- ・県 保健福祉事務所 保健師
- ・県 こども家庭課 小慢児童等自立支援員
- ・市 防災・減災課 係長、防災アドバイザー
- ・市 健康課 保健師
- ・訪問看護ステーション 看護師
- ・医療機器メーカー
- ・地区民生委員
- ・市福祉課 障がい福祉担当、医療的ケア見担当



計画策定～支援会議での確認事項～

①避難先の選定 ➡ 停電しない場所

非常電源のある 公共施設

②災害時対応フローチャート（個別避難計画）

持ち出し品チェックリストの作成

※誰もが一目でわかる簡単なづくり



災害時対応フローチャート、持ち出し品チェックリスト、避難手順書はラミネートし、ベッド脇に常備。

③個別避難訓練の実施 ➡ 避難計画の実効性の確認

避難訓練で大切にしていること

①個別に計画

②毎年必ず実施

③関係機関の担当者が全員参加

④訓練後の振り返りで改善点や新しい課題を共有



医療的ケア児災害時支援懇談会

～顔が見える関係の構築～

避難訓練の内容（動画：下線部分）

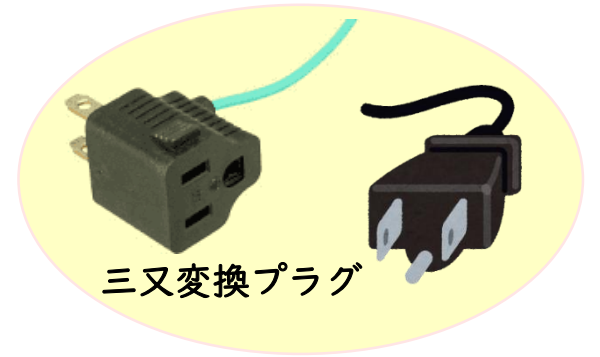
- ①想定：大雨警報時、母と医療的ケア児本人のみ在宅。
- ②福祉課に避難したい旨の連絡、避難先の決定。
- ③協力者がいないため、消防署に避難協力要請。
- ④到着した消防隊員の協力で、ご本人や荷物を自家用車に乗せる。
- ⑤消防車輛の先導の元、自家用車で避難先に移動。

（移動中の緊急事態に備え、合図で停車する訓練）

- ⑥避難先（市役所）では、職員が受け入れ準備。
- ⑦到着後、職員が避難者を誘導。荷物を搬入。
- ⑧酸素濃縮器と自家発電機をつなぐ。
- ⑨訓練後すぐに参加者全員で振り返り。



個別避難訓練で見たこと



- 一人ひとりの状況、家庭環境が違う。
 - ➡ 個々に応じた「持ち出し品チェックリスト」の作成。
- 入院とは違い、避難先にはないものが多い。
 - ➡ 三又変換プラグ、S字フック、高さのある台などの準備。
- 避難所 = 段ボールベッドという思い込み
 - ➡ 体が小さい、または動いた際に落下する危険性の確認。
- 支援者が異動で替わる。保護者も手順を忘れる
 - ➡ 関係者みんなで「避難手順書」の共有・確認・見直し。

定期的な個別避難訓練は必要！

訓練が
活かた!!

令和2年9月6日 超大型台風10号接近！

- ・9月4日、電源の必要な医ケア児宅に連絡、避難を勧める。
- ・訓練未実施の3家庭を訪問し、避難手順の確認。
- ・4家庭が市役所に、2家庭は祖父母宅に避難。

訓練から1週間で本番が来るなんて！
訓練をしていて良かった😊



保護者様

以降、台風時にはスムーズに避難されている。

避難訓練したことで全国に通じる気づき

- ◎保護者、関係機関それぞれができること、できないことを確認することで、みんなの安心につながる。
- ★無停電対応の施設がないので、空調、水、入浴等の問題が大きい。
- ★避難所は市が開設するとなっているが、こうした電源が必要な方は広域で受け入れられる停電しない施設、仕組みが欲しい。
- ★医療機関との災害時避難の連携は難しい。

武雄市が次にやること

- ・停電が長引く場合の次の避難先の検討
(空調や水、入浴等の課題解決)
- ・道路が寸断されるような災害時の想定
(自宅避難の準備、連絡方法など)



避難訓練完了😊
(市役所 和室にて)

保護者としての思い

ともなが わたる

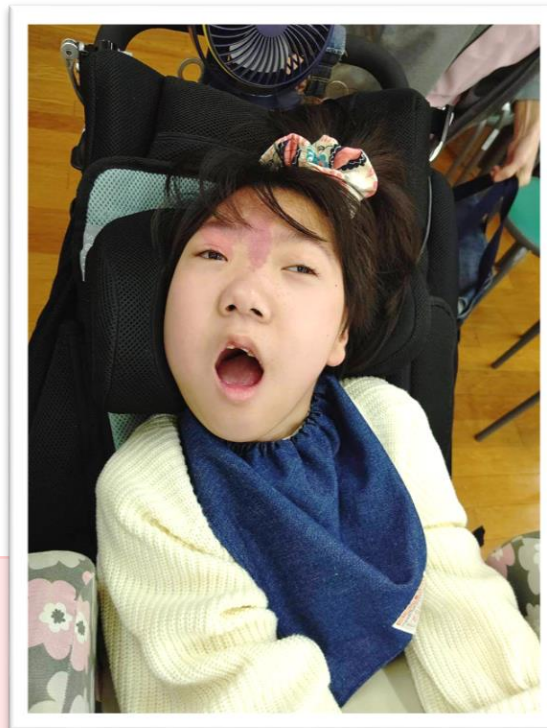
朝永 渉 (防災士／佐賀県医療的ケア児支援センター・
医療的ケア児等防災アドバイザー)

娘 海羽(みう)のこと

特別支援学校 小学部6年生

疾患：大動脈狭窄症、ステージ・ウェバー症候群、
低酸素脳症、てんかんがあり、気管切開。

医ケア：酸素吸入、たん吸引、経管栄養（胃ろう）
パルスオキシメーター使用。

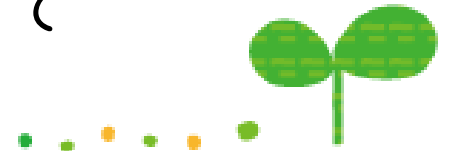


- ・計画前は「避難所へは行けない」と思い込んでいた。避難道具の準備はネット検索で行い、自宅避難を整えることを考えていた。

- ・計画策定後、計画通りに避難できるかという不安があった。実際に避難訓練をしてみて分かったことがたくさんあった。



- ・毎年の訓練で、避難道具の見直しなども忘れず確認でき、助かっている。
- ・他の自治体でも計画策定だけにとどまらず、ぜひ訓練までやってほしい。
- ・避難訓練は１回で終わらず毎年実施してほしい。
家族も１回したからと断らず、準備が大変でも続けてほしい。
- ・年々家族の状況も変わる中、毎年関係者の方々に状況を知ってもらえる安心感が大きい。



避難訓練での工夫



本人の物に加え、
付き添う保護者の
荷物もたくさん。
スーツケースなど、
運びやすいように
工夫した。



一升瓶コンテナは
酸素ボンベの移動
にピッタリ。
訓練を重ねる中で
考えられた、
保護者のアイデア。



自家用車での避難の
際は、車に積み重ね
やすいことも大切。
半透明の衣装ケース
にしたり、内容を
書いておくことで、
中を確認しやすく、
支援者も運びやすい。
雨に濡れないので
安心。



国に要望したいこと

- 現在、個別避難計画作成が努力義務のため、行政の対応に格差が出ている。
これを義務化して確実に作成してほしい。
- 私も防災士、防災アドバイザーとして県内自治体の避難訓練に参加したが、自家発電設備が未整備だったり、設備はあるが空調が使えないところがある。また、停電時は水が使えないことなど課題が多い。自治体が設備整備できるよう支援してもらいたい。